

第7回超領域社会工学研究会報告

第7回目の研究会を2018年2月10日(土)12時30分から16時まで横浜市の神奈川県立近代文学館和室にて開催しました。

今回は近藤大博会長にご来臨いただくとともに2名の非会員の方も参加され充実した研究会となりました。(参加者は8名)

研究発表のテーマは下記の通りです。(敬称略)

特別講演 近藤大博「月刊総合雑誌にみる中国」

我が国においては、中国に関して多くの否定的な報道がなされています。最近の総合雑誌の記事内容から習近平体制の今後の動向やご自身の中国北京でのご講演の話をもとにした最新の中国事情をお話いただきました。

中国ではスマホ決済が進んでいますが、便利である反面、当局による管理・監視が強くなるのではと懸念されるとともに、未だに現金重視の我が国の状況も含めて興味深いことです。

草野純子「2D世界の影響についてー社会的影響を中心にー」

アニメーションやイラスト、漫画などの2D世界=現実世界ではない世界は経済的効果が高く今や日本経済には欠かせない存在になっています。その反面、リアルなコミュニケーションが苦手な現代の若者が2Dの世界にはまり現実から逃避してしまうマイナス面もあります。

しかしながら、2D世界は身体・精神的には、①癒しの効果②胸キュン効果によるフェニルエチルアミンの分泌③ストレスの軽減や仕事への意欲向上など様々なプラス効果が認められます。特にイケメン2D世界はあらゆる年齢層の女性たちの癒し効果が大きいようです。このように、2D世界は経済・身体・社会的に日本を支えていると言えるでしょう。

増子保志「天津飯の起源 一定説を疑うー」

中国には天津飯は存在しません。しかし我が国の大衆中華店のメニューには多く見られます。ではいつごろどこで天津飯は生まれたのでしょうか？

相変わらず、平凡なテーマを堂々と研究発表のように装う大胆な発想に一同、冷笑しながら、美味しそうな料理の写真を見てお腹の虫が鳴るのを禁じえませんでした。一見、論理的な発表に見えましたが、結局のところ結論は出ず、多くの課題を提示したものになりました。最後に発表者の性格を如実に反映した大胆な仮説の提唱もあり、一同あまりの陳腐な内容に凍てつく場面もある混沌とした発表でした。

安田裕子「生命倫理教育とマインドフルネス—プラムヴィレッジの体験から—」
マインドフルネスとは今、この瞬間に目覚めている力です。どんな時にも心と体を一つに調和させることで自分自身の有り様を見つめることができます。タイのプラムヴィレッジ（僧院の瞑想センター）での体験をもとに呼吸を整えることの大切さを説明いただきました。マインドフルネスや生命倫理教育が近年の看護教育に重要な位置を占めてくるという説明があり、瞑想を加えることで看護に求められる根本的な要因を会得できる可能性について言及されました。

宮園圭大郎 「灯台の歴史的背景と魅力」

最近「灯台女子」など若い女性に人気がある灯台に関して、当代随一の灯台愛好家である発表者の灯台に対する熱い思いが“ひしひし”と伝わってくる発表でした。灯台の楽しみ方の視点として構造、風景、外観、レンズ、目的地への旅などの説明があり、灯台一つ一つが歴史やドラマを有することが理解できました。お勧めの灯台の紹介もあり、灯台のもつ奥深さに認識を新たにしました。

長井壽満 「かわいい日本の妖怪」

西洋の妖怪と東洋の妖怪の違いは西洋では悪魔的なものが多いのに対して、東洋では人間と他界の境界線に存在しており、本質的に人間の本性を持っているとのことです。室町時代の「百鬼夜行」から江戸時代の「化物退治絵巻」を例にとりながら、時代とともに変化する妖怪のイメージはメディアの発達と大衆化に呼応して変化することが示されました。発表中、和室の障子に怪しげな影が浮かび「何かようかい？」と妖怪の皆さんも発表に興味を持たれたようでした。

加藤香須美「外国人の皆さん！「ちょっと」わかる？」

—『みんなの日本語』にみる「ちょっと」—

日本人ではごく普通に使う「ちょっと」ですが、日本に来る外国人達は「ちょっと」という言葉をどのように認識するのかを会話事例に基づき説明いただきました。参加者からも言葉の解釈に関して闊達な意見が交わされ、「ちょっと」した討論会の様相を帯び「ちょっと」の使い方の難しさを感じながらも「ちょっと」いい感じで研究会を締めくくることができました。

懇親会は横浜中華街の広東料理・南粵美食にて行いました。最近、食べ放題店が異常に増殖し、昔ながらのお店が閉店している中華街ですが、同店は新華僑系の店とはいえ、ご夫婦で切り盛りされている家庭的なお店でした。中国料理には一家言ある方が多い研究会ということで、中国料理の研究者でもあらせられる当研究部会長が事前にマスターとメニューの調整を行い、通常には無いメニュー

一を組み立てたことで素晴らしい宴を持つことができました。

最後に恒例の研究部会長による「みなさん最高ですか？」の掛け声に参加者全員「最高です！」と一同声高らかに呼応し、傍にいた行儀の悪いお子様たちの度肝を一瞬抜くほど熱い団結心が迸る懇親会でした。

今回も各発表者の興味関心の多様さに感銘を受けるとともに、当研究部会の特色である学問の境界を超えた発表を聞くことによって自身の研究に活かすことの可能性を改めて認識した研究発表会でした。

次回は、6月に伊東温泉にて1泊の旅行を兼ねた研究部会を開催する予定です。

参考までに宴で食したメニューです。

雑錦拼盤（叉焼、焼鴨、黄瓜、海哲、皮蛋）（前菜5種の盛り合わせ）

鹽焗鷄（丸鶏の塩蒸し焼）

美味しい湯（シェフのお任せスープ）

腐竹蒸牛肉丸（牛肉団子の湯葉蒸）

瑤柱扒白果

薑汁炒西蘭花（ブロッコリーの生姜炒め）

香港海老雲吞麵（エビワンタン麵）

老薑蕃薯糖水（温かいサツマイモの生姜甘味デザートスープ）



（研究部会長 増子保志）